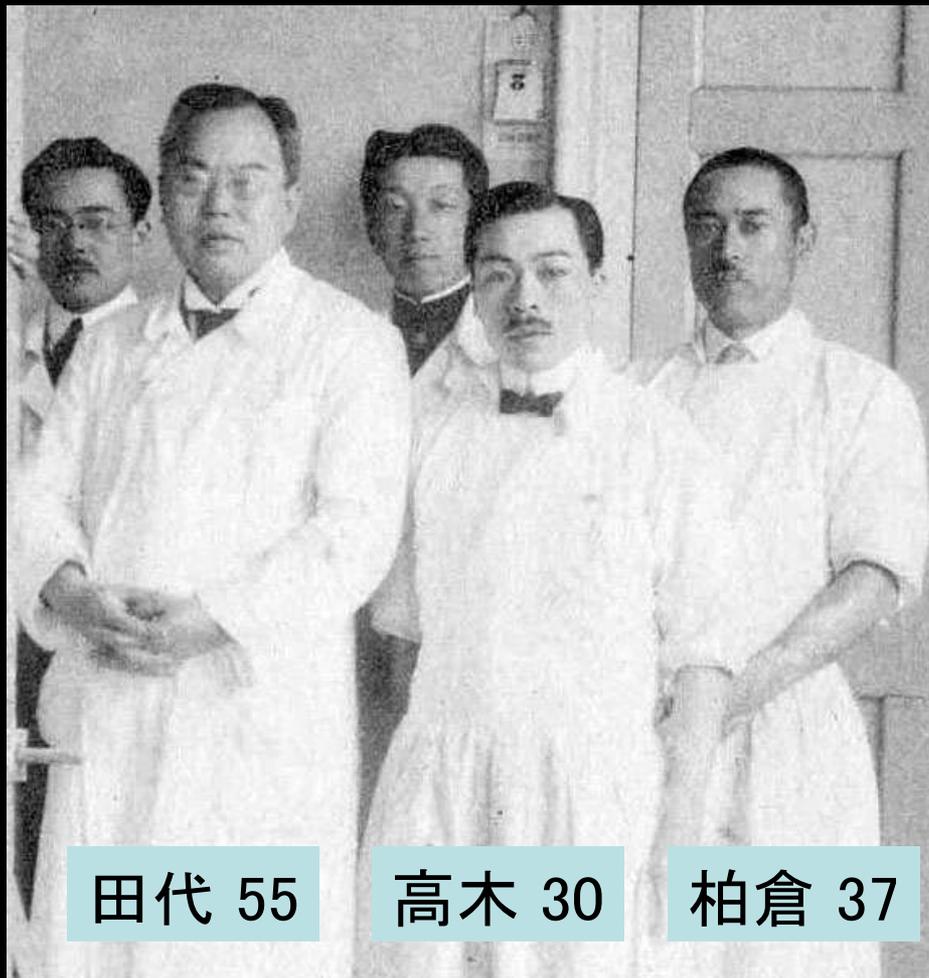


整肢療護園のあゆみ

平成24年4月

1919 東京帝大整形外科



田代 55

高木 30

柏倉 37

手足不自由な児童
自活の道
治療・教育・授産

3人の履歴



田代義徳

1888 医師

1906 整形外科



柏倉松蔵

1903 教員

1918 マッサージ師

1919 東京帝大雇



高木憲次

1915 医師

1916 入局

それぞれの道

田代義徳

柏倉松蔵

高木憲次

医師

教師

医師

東京市会議員

マッサージ師

組織者

学校の設立

先導的実践

医療施設の設立

1932 光明学校

1921 柏学園

1942 整肢療護園

1947 児童福祉法

田代義徳先生（東大整形外科初代教授）

- 大正10年 柏倉松蔵氏に柏学園創立を指南
（東京小石川）
- 大正13年 退官，下谷区医師会長，区議会議員
脳卒中を得るも，その後市会議員
- 昭和 5年 「手足不自由なる児童の保護について」
不具児童検診
- 昭和 7年 光明養護学校設立に尽力



東大整形外科初代教授 田代義徳先生

人生感意氣功名
惟汲論

先考筆蹟



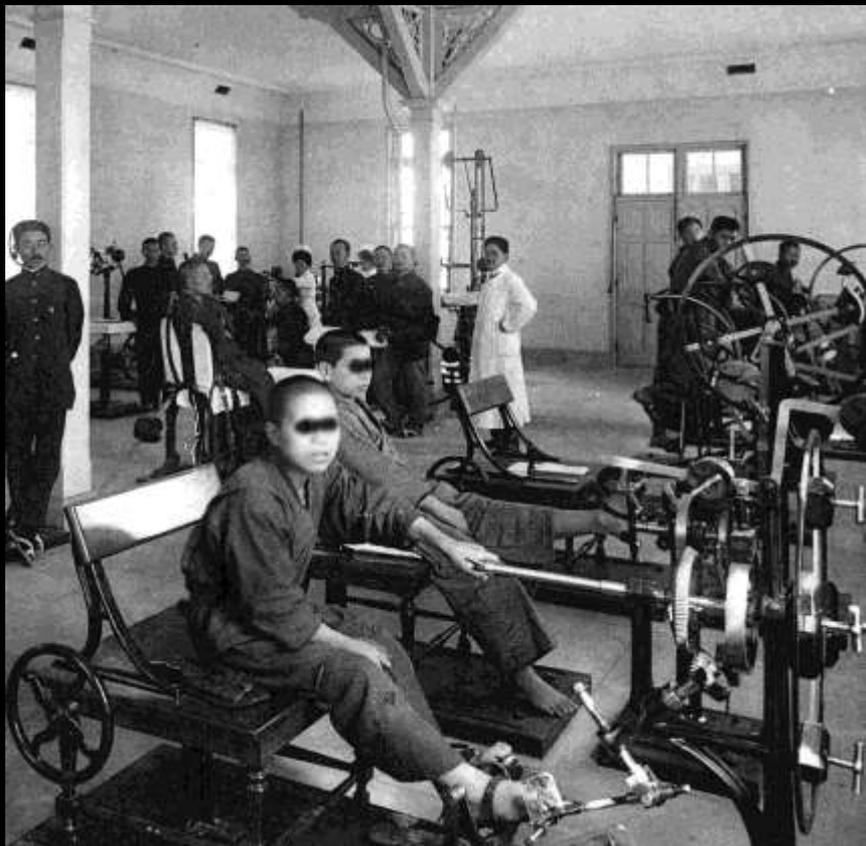
先考「生誕処」記念碑と生家

先考遺影(昭和38年)より:田代先生

内容

- (1) 1906～1920 現実から目標設定
へ
- (2) 1921～1933 柏学園と光明学校
- (3) 1932～1945 整肢療護園
- (4) 1946～1952 再建
- (5) 1953～1964 高木と柏倉の晩年

(1) 1906～1920 現実から目標設定へ



東京帝大 治療器械室

整形外科学の導入

肢体不自由児の存在

放置、厄介者

自活の方法

治療と教育

治療期間が長い

現状認識と目標設定

田代 米国の職業訓練校

クリップルスクール

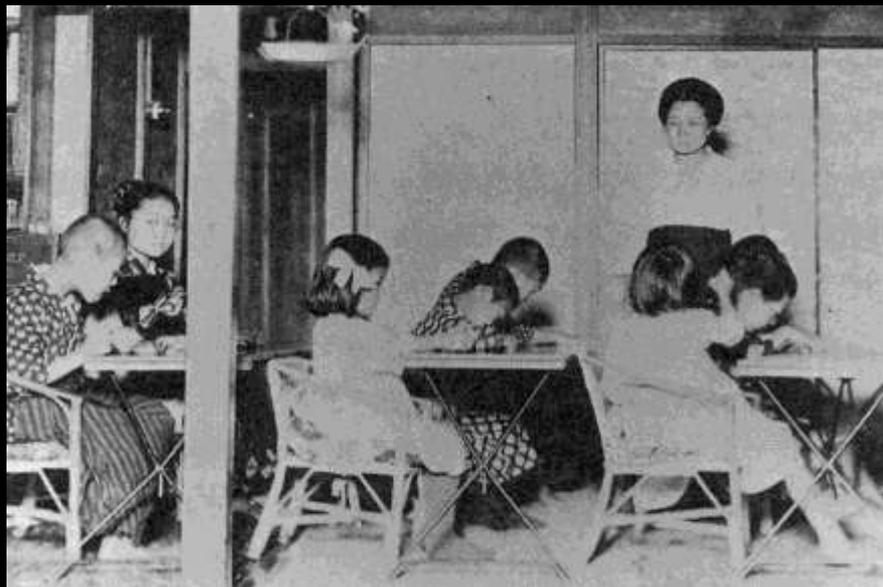
柏倉 教育現場の実態

集団で教育と治療
理学療法

高木 下谷万年町の調査
(クリュッペルハイム)

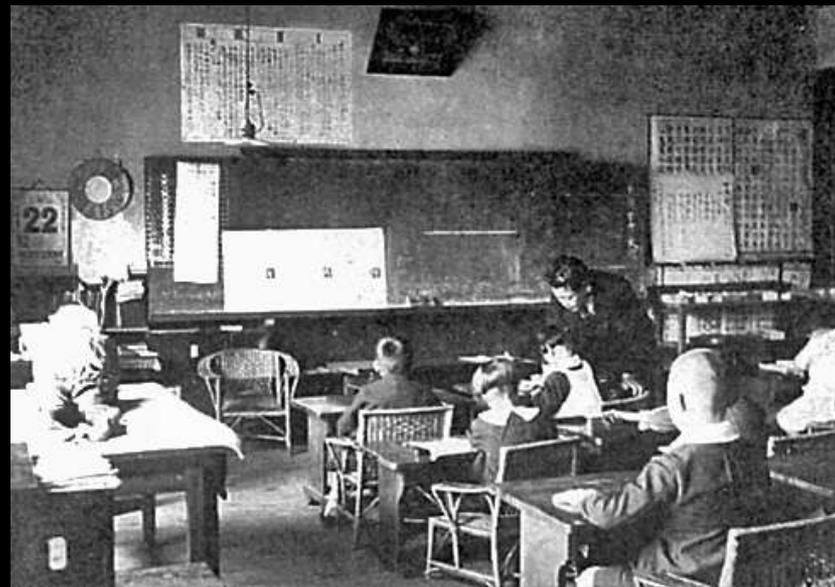
夢の楽園 教療所

(2) 1921～1933 柏学園と光明学校



1921 柏学園

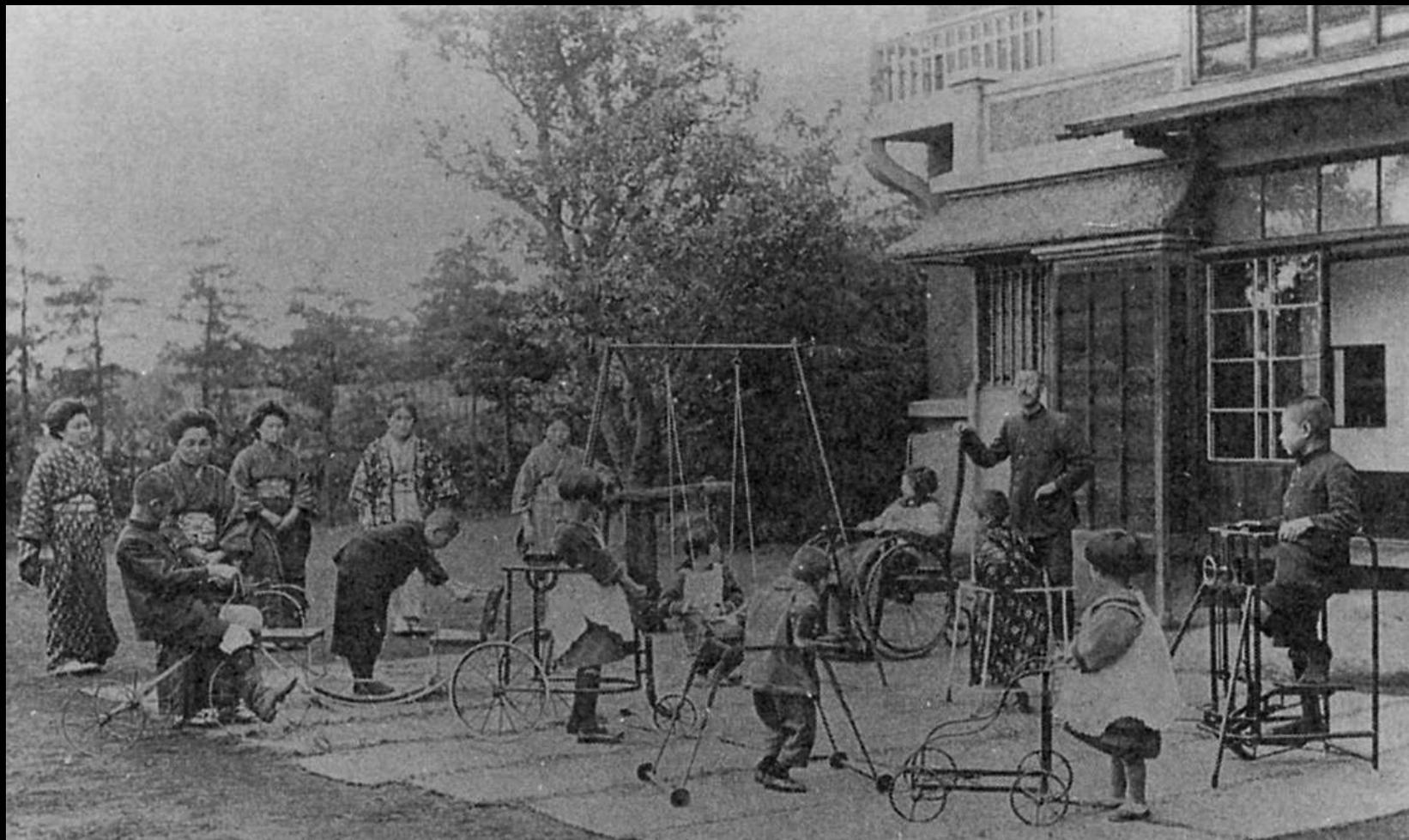
最初の肢体不自由児の
ための学校



1932 東京市立光明学校

最初の公立の
肢体不自由児のための学校

1921 柏倉 柏学園を設立



マッサージ・医療体操・練習治療法

1922 高木 クリュッペルハイム訪問



留学中の高木
ベルリンにて撮影

国立のクリュッペルハイム
内務省と文部省



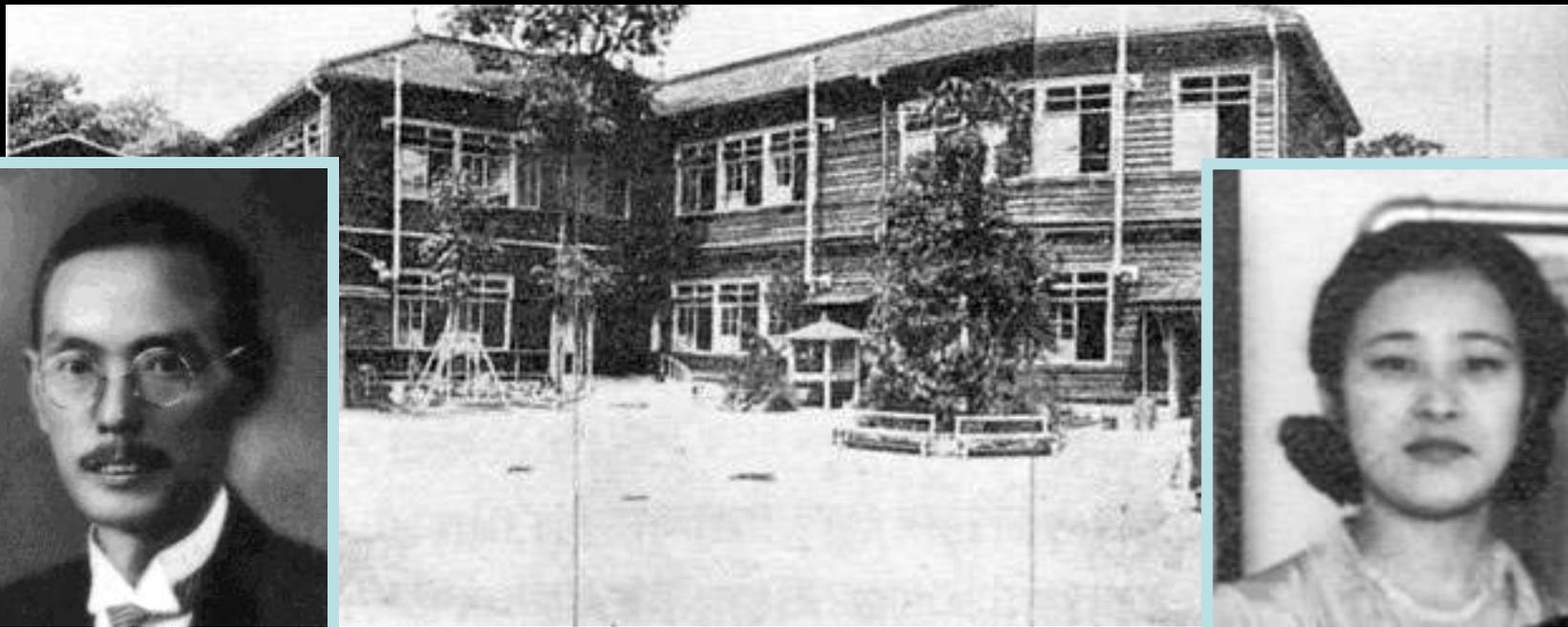
民間主導

1925 肢節不完児福利会

1932 肢体不自由児療護協会

田代の反対

1932 田代 尽力によって東京市立光明学校が開校



結城捨次郎 (42)

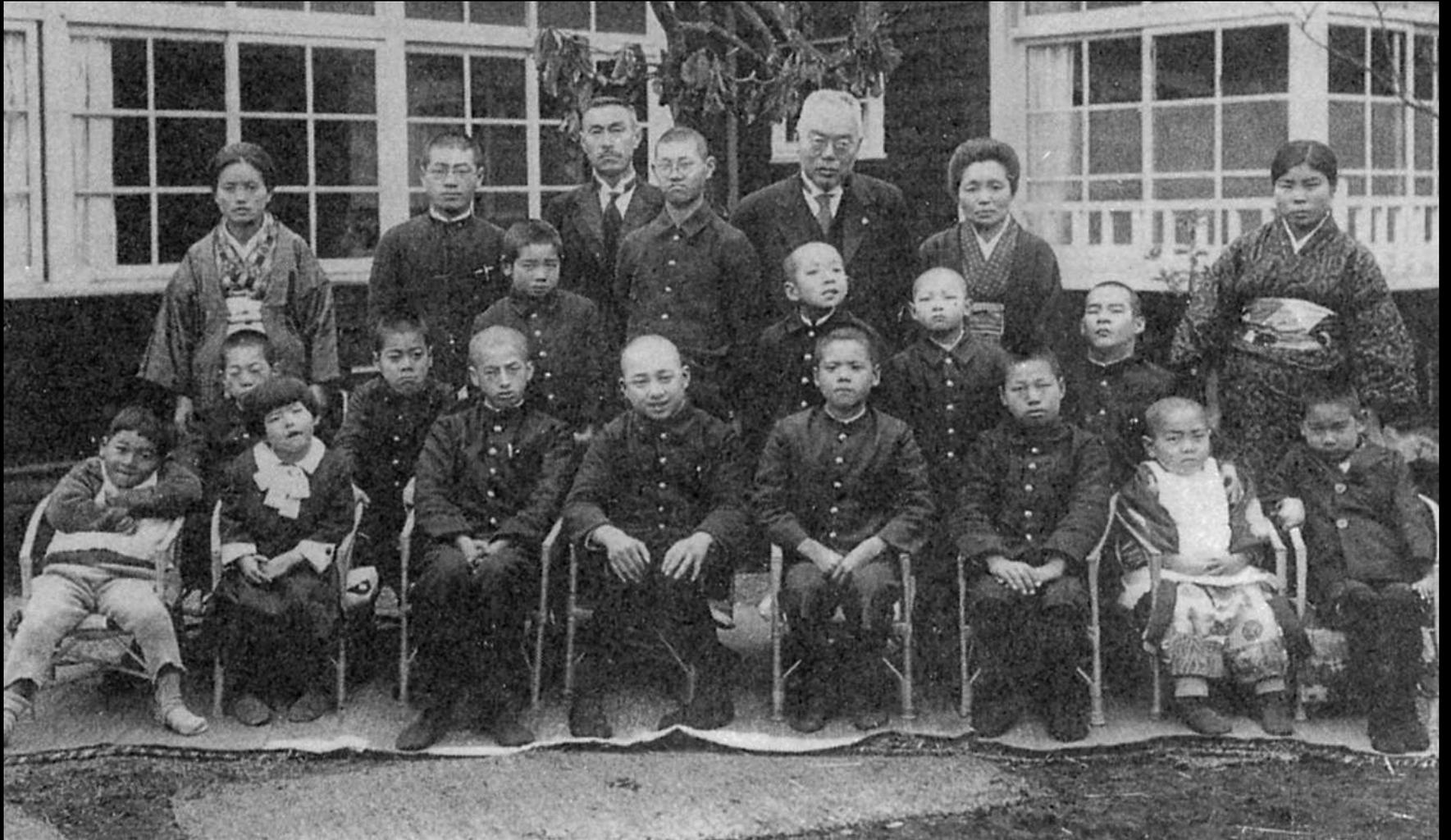


竹澤貞女 (29)

最初の公的な肢体不自由児学校



1933 柏倉 卒業生を出す



柏学園と創立者柏倉松蔵 とくに夫妻について

—日本最初の肢体不自由児通園施設—

「田代義徳教授に師事してマッサージの資格も取り、
病院風のリハビリを学校風に変えて療育体操」
(田代先生、学園顧問となる)

竹沢貞女(東大整形外科、女性医学博士第一号)

「東京府下岩ノ坂「クリュッペル」調査

日整会誌 6巻 別冊 (昭和7年)

(3) 1932～1945 整肢療護園

高木 民間によるクリュッペルハイム建設



信奉者の育成

調査活動

広報活動

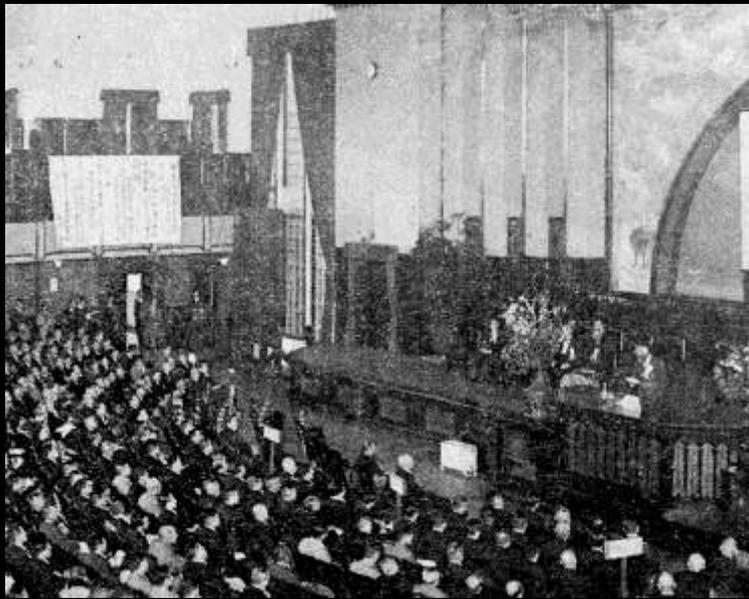
寄付金募集

群馬県新田郡

東京岩の坂

本郷・下谷

整肢療護園までの道



1934 日本医学会演説
朝日講堂講演

1932 肢体不自由児療護協会

1935 肢体不自由児医治養護協会

1937 肢体不自由者療護園

建設委員会

1939 (財) 肢体不自由者療護園

1941 (財) 整肢療護会

1942.5.5 高木 整肢療護園を開園



6月5日 ミッドウェー海戦

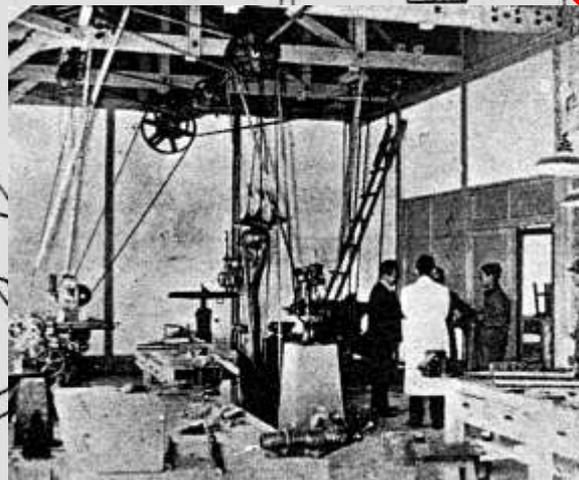
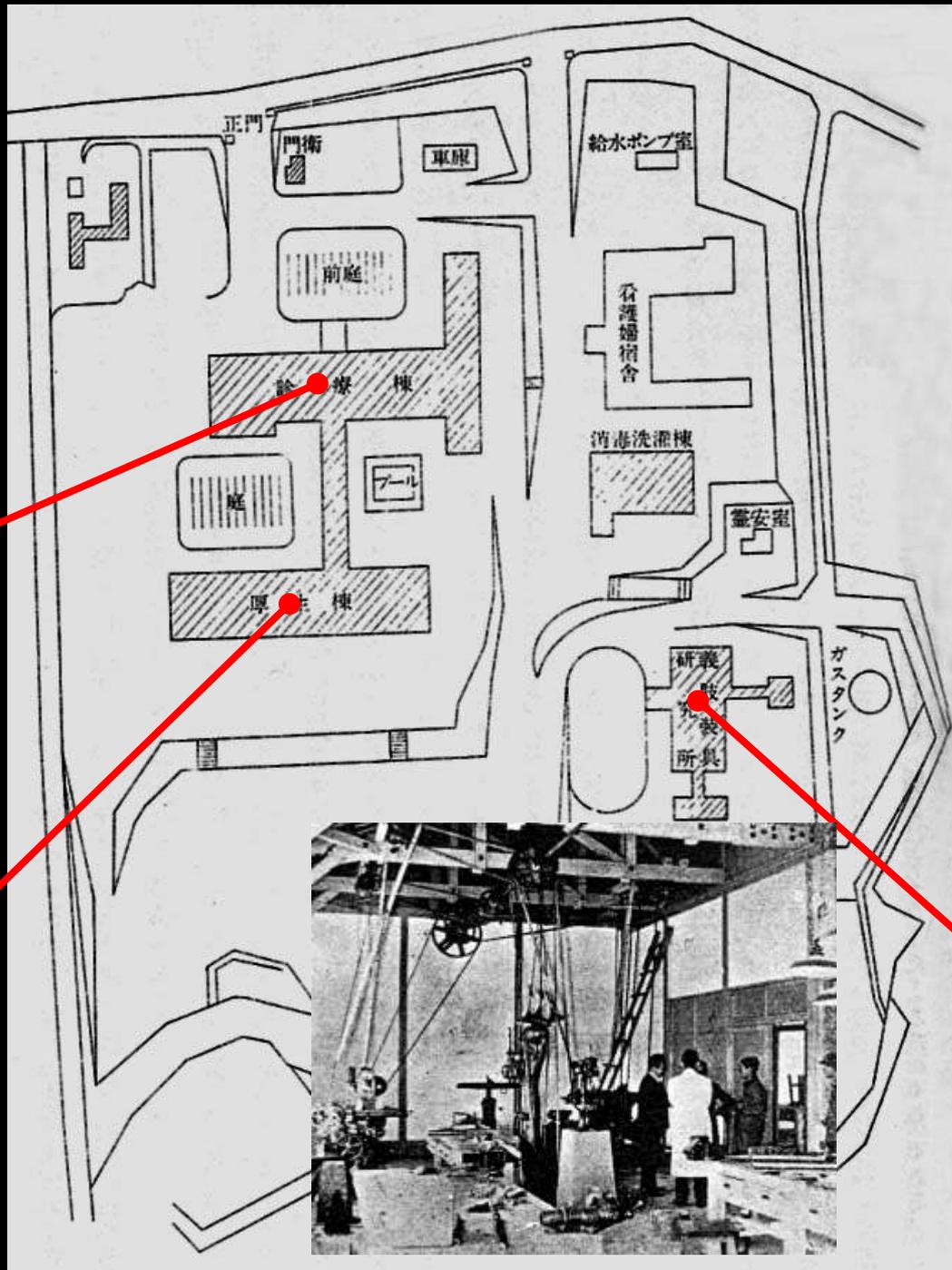
2万1千坪

建物 1950坪

定員105名

病室
手術室

職能訓練部



義肢装具
研究所

戦時体制と整肢療護園

1941 医療関係者徴用令

1942 国民医療法

特殊法人 日本医療団

整肢療護園の開園

1943 整肢療護園の移管

整肢療護会の解散





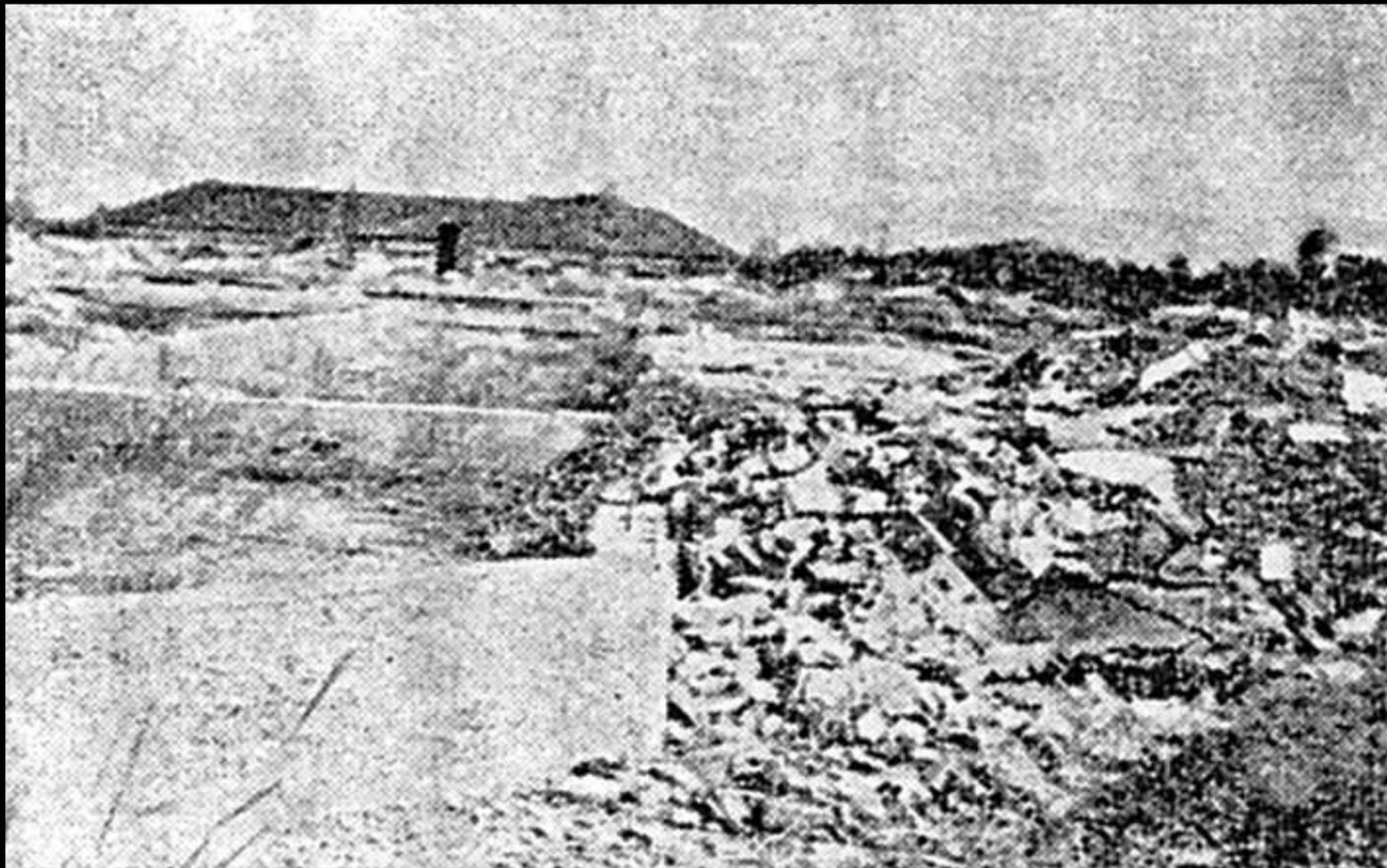
昭和17年5月に板橋の2万坪の土地に設立された戦時下の整肢療護園

1944.3-11 高木の軟禁（汪兆銘の治療）



名古屋帝国大学 構内

1945.3 整肢療護園 空襲で灰燼



3月9日 死傷者 12万人



17年5月に板橋の2万坪の土地に設立された戦時下の整肢療護園



空襲で灰燼に帰した整肢療護園の門柱

唯一焼け残った看護婦宿舎に20名

「療育の灯を消すな」と長崎出島の物語 (ナポレオンに征服されたオランダ本土にはない国旗が)

(4) 1946～1952 再建



退官講義

1946.5 整肢療護園 業務再開

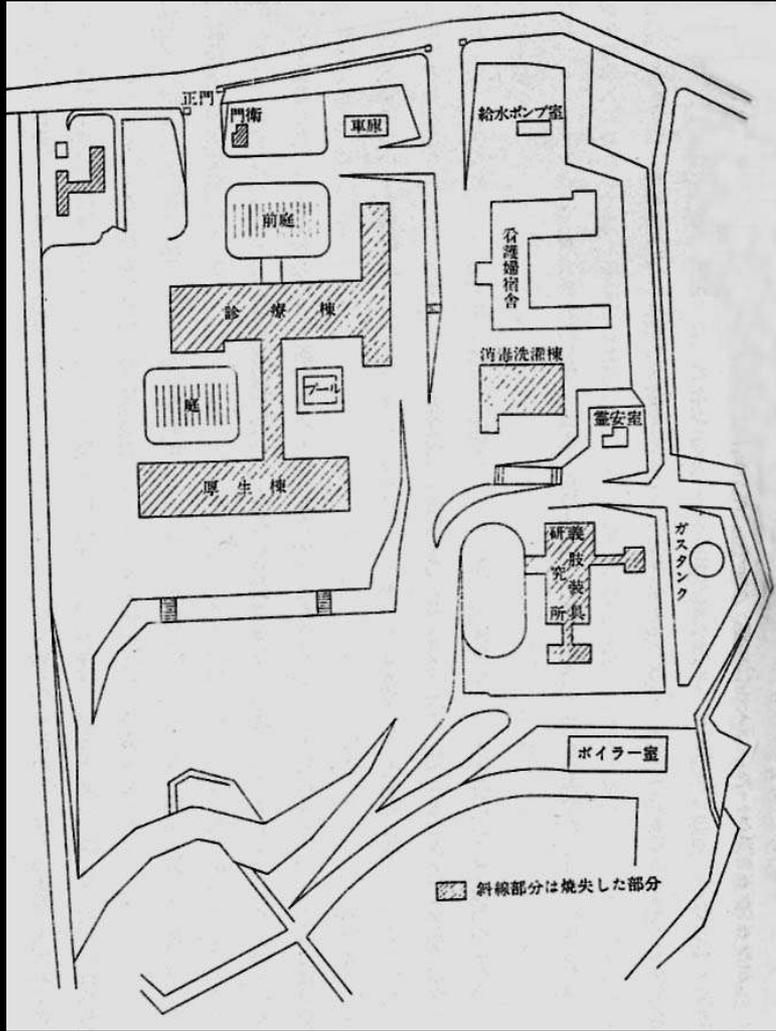
1947.12 児童福祉法公布

1948.3 高木 東大退官

1948.9 日本肢体不自由児協会

1951.9 整肢療護園 上棟式

1946.5 整肢療護園 業務再開



日本医療団

- ▶ 売却
- ▶ 火災保険金
- ▶ 給料不払い

療育の灯を絶やして

しまったらば重大な結果を

招くおそれがある。

整肢療護園の復興に参加する人々



小池文英 (33) 堤 直温 (41)



五味重春 (30)



津山直一 (23)



東野修治 (23)



昭和26年1月小池文英先生、帰朝歓迎会

日本医療団との経緯

1947.10 日本医療団の解散等に関する法律

1948.9 (財)日本肢体不自由児協会



清算人
赤木朝治

整肢療護会の後身と認めない



土地建物を国に寄付
日本肢体不自由児協会にも寄付

1951 厚生省に移管→経営委託

整肢療護園の復興



1951.9 上棟式

橋本竜伍衆議院議員



1952.1 本館落成祝賀会

高松宮殿下、林衆議院議長、吉武厚生大臣

高木の構想と現実

国立施設化

モデル施設

専門職員の養成

療育担当部門

医務部

教育部

克服部

職育部

厚生部

世話課

1947.12 児童福祉法公布

第43条の3

し体不自由児施設は、上し、下しまたは
体幹の機能の不自由な児童を治療すると
ともに、**独立自活**に必要な**知識技能**を
与えることを目的とする施設とする。

児童福祉法に基づく肢体不自由児施設

1950.3 多摩緑成会整育園(財団法人)

1950.4 群馬整肢療護園(県立民営)

1951.10 整肢療護園(厚生省から委託)

1952.9 大阪整肢学院(府立)



群馬整肢療護園

(5) 1953～1964 高木と柏倉の晩年



1958 柏学園廃止

1963 高木逝去 (74歳)

1964 柏倉逝去 (82歳)



1962.6 (広島県若草園福山分園)

- 明治21年2月東京に生まれる
- 大正4年東京帝国大学卒業
- 大正13年東京帝国大学教授
- 昭和17年

財団法人整肢療護園を設立

- 昭和25年 肢体不自由児協会会長
- 昭和35年
国際肢体不自由者福祉協会副会長
- 昭和38年4月15日逝去

享年75歳



「療育とは、時代の科学を総動員して不自由な
肢体を出来るだけ克服し、それによって幸いにも
恢復したら『肢体の復活能力』そのものを(残
存能力ではない)出来👁️だけ有効に活用させ、
以て、自活の途の立つように育成することであ
る。」

(昭和26年 療育第一巻 第一号)

「脳性麻痺には脳性治療を」

二つの三位一体

1. 治療・教育・職能

2. 啓蒙

本人には昂然たれ

家族には隠すなかれ

社会には好意の無関心

- | | | |
|------|----|--------------------|
| 1906 | 田代 | 整形外科学講座 |
| 1921 | 柏倉 | 柏学園 |
| 1932 | 田代 | 東京市立光明学校 |
| 1942 | 高木 | 整肢療護園 |
| 1947 | 高木 | 児童福祉法 |
| 1967 | 小池 | 重症心身障害児施設「むらさき愛育園」 |
| 1980 | 小池 | 心身障害児総合医療療育センター |

肢体不自由

療育の2つは

東大整形外科第2代教授
高木憲次先生が創られた

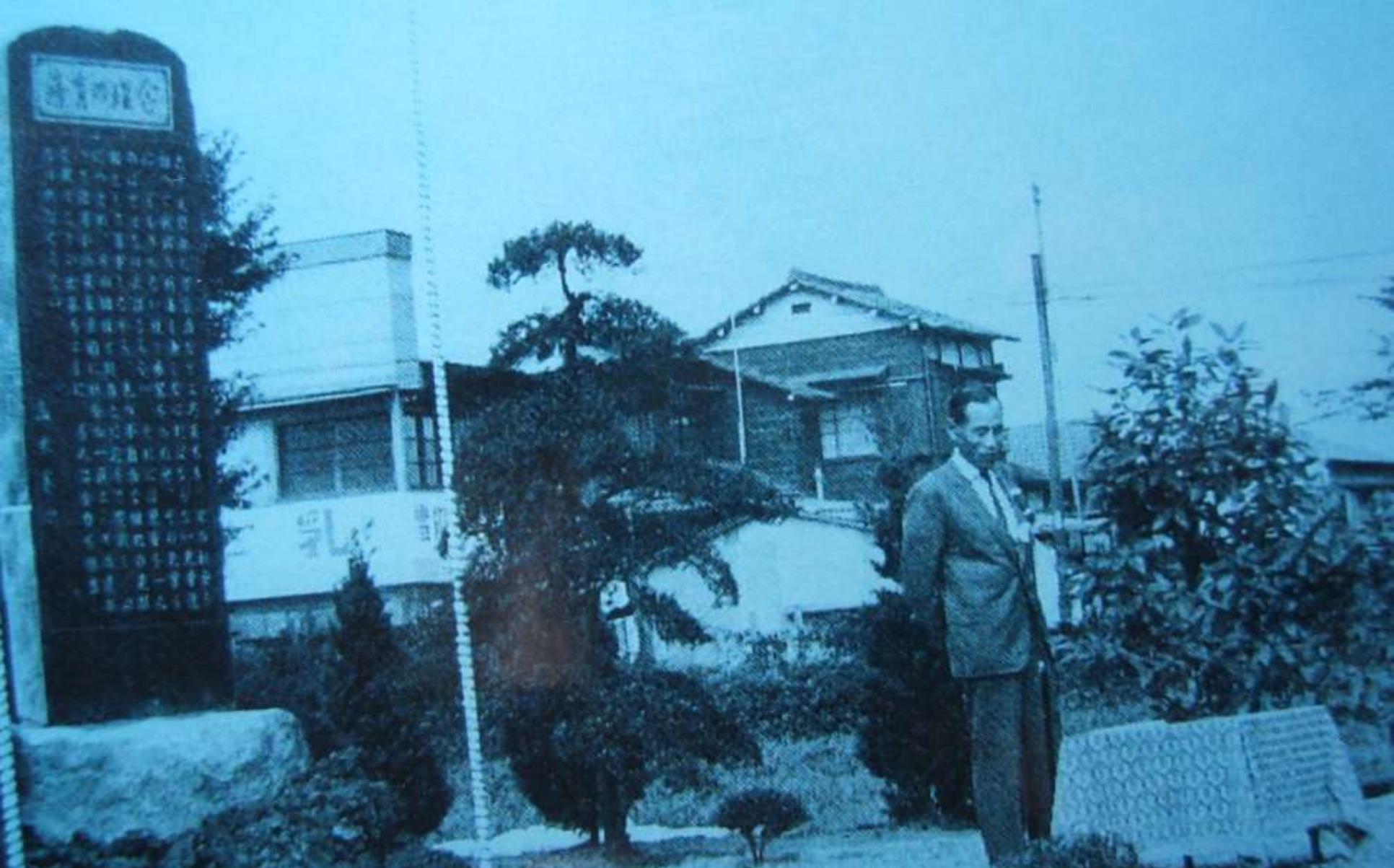
理念の療育

たとえ肢体に不自由なところあるも、次の社会を担つて我邦の将来を決しなければならぬ児童達に、くもりのない魂と希望をもたせ、その天稟をのばさせなければならぬ。それには児童を一人格として尊重しながら、先づ不自由な個処の克服につとめ、その個性と能力とに依じて育成し、以つて彼等が將来自主的に社会の一員としての責任を果すことが出来るように、吾人は全力を傾盡しなればならぬ。

高木憲次

(碑文 全文)





療育の碑 除幕式の三木威勇治先生

第3代東大整形外科教授 (昭和38年10月)

昭和23年の児童福祉法制定に尽力

「児童福祉法と整形外科」

日整会所説 於東大東講堂

児童福祉法第43条

肢体不自由児施設は、上肢、下肢又は体幹の機能障害のある児童を治療するとともに、独立自活に必要な知識技能を与えることを目的とする施設である

身体障害者の雇用徹底のための賃金の 「労働障害率」だけ保障せよ

中央身体障害社福祉審議会会長
高木憲次

(又かという輦蹙を覚悟の上にて、是が実現をみる迄は、
決して本提唱を諦念するものではない)

高木憲次先生による肢体不自由児施設の区分

- 1.啓蒙期 (大正13年～昭和8年)
- 2.黎明期 (昭和9年～昭和16年)
- 3.停滞期 (昭和16年～昭和21年)

療育の火を消すな

- 4.復活曙光期(昭和21年～)

全国巡回講演と療育相談

大正7年 「夢の楽園教療所」の説

大正13年 「クリュッペルハイムに就て」

東大整形外科教授の初講義

昭和23年 「療育の理念」

東大整形外科教授の最終講義

次の時代へ



1952年7月
整肢療護園
集団機能訓練

1957 光明養護学校

1960 整肢療護園に研修棟

1963 日本リハビリテーション医学会

小池先生

(二代園長 昭和38年—昭和58年)

昭和17年 整肢療護園医員

昭和22年 整肢療護園医療部長

昭和38年 整肢療護園園長

昭和55年～昭和58年

心身障害児総合医療療育センター所長



省りみてつかまりの加し
暖炉燃中 小池

昭和49年11月 ご還暦の慶賀によせて

小池文英先生（我が国にリハビリテーションの言葉を定着させた一人）



昭和36年 皇太子・妃殿下

小池文英先生著書

- 「脳性麻痺」 昭和29年 日本肢体不自由児協会
- 「小児麻痺と闘う」訳 昭和37年 時事通信社
- 「脊髄性・脳性小児麻痺」 昭和38年 金原出版
- 「リハビリテーション医学」(ラスク著)監訳
昭和34年 医歯薬出版
- 「脳性麻痺の治療」 昭和41年 医通の日本社
- 「リハビリテーション講座第1巻」監修
昭和42年 一粒社
- 「脳性麻痺の反射検査」訳 昭和43年 医歯薬出版
- 「脳性麻痺」—その理解とチームアプローチのために
昭和44年 日本肢体不自由児協会
- 「リハビリテーション便覧」 昭和45年 医歯薬出版
- 「リハビリテーション医学全書」 昭和49年 医歯薬出版

RIの憲章 ライフパトロン

K Takagi

F Koike

1. RIの憲章ライフパトロン

REHABILITATION INTERNATIONAL



In recognition of deep and abiding interest in the improvement
of the quality of life for disabled persons throughout the world, and
In appreciation of most generous support extended for the achievement of the
worldwide mission and goals of Rehabilitation International,

appoints

Dr. Kenji Takagi

(in memoriam)

Charter Life Patron Member
with all pertaining rights and privileges

15 November 1989



Fenmore R. Seton
SECRETARY GENERAL
Sus. R. Hammerman

REHABILITATION INTERNATIONAL



In recognition of deep and abiding interest in the improvement
of the quality of life for disabled persons throughout the world, and
In appreciation of most generous support extended for the achievement of the
worldwide mission and goals of Rehabilitation International,

appoints

Dr. Fumihide Koike

(in memoriam)

Charter Life Patron Member
with all pertaining rights and privileges

15 November 1989



Fenmore R. Seton
SECRETARY GENERAL
Sus. R. Hammerman

リハビリテーション・インターナショナル

世界中の障害者の生活の質の向上に対し不断の関心を払われたことを表彰し、リハビリテーション・インターナショナルの全世界的使命と目的達成へ多大の支援を賜ったことに感謝して、ここにDr. 小池文英(故人を偲び)を憲章ライフパトロン会員に任じ、その権利と特典を呈します。

15 November 1989

会 頭 Fenmore R. Seton
事務総長 Sus. R. Hammerman



前列左より、高木、小池、津山直一、五味重春先生

五味重春先生 (日本リハビリテーション医学会名誉会員)

昭和24年 三木威勇治教授より「脳性麻痺の臨床的研究」
足クローヌスの筋電図、気脳写、踵骨X線検査

昭和30～44年 整肢療護園勤務 (副園長)
昭和32年、WHOフェローとして欧州へ
岩手、沖縄の療育の基盤作成に参画

昭和43年 都立府中リハビリ学院設立運営
(その後、都立保健大学となる)

昭和54年 埼玉県障害者リハセンター設立



平成2年 小泉厚生大臣の視察

(坂口前心身障害児総合医療療育センター-所長, 日整会名誉会員およびヒストリアン)



整肢療護園50周年記念祝賀会

日本肢体不自由児協会会長津山直一先生

(平成4年10月)

(法制上の位置付け)

病院(医療法)+児童福祉施設(児童福祉法)

(Hospital and Home)

1. **肢体不自由児施設** (医療型障害児入所施設)
2. 重症心身障害児施設
3. 肢体不自由児通園施設
4. 第一種自閉症児施設

(6) 手足不自由な児童のために

1 現状の認識

2 目標設定

3 戦略

社会の理解

4 現実への対応

先進国の様子

日本の実態

医療の実力と限界

学会報告

広報活動

政治への働きかけ

第50回 全国肢体不自由児 療育研究大会

「皆で支え合う療育を～施設と地域の連携～」

会期：平成17年10月21日（金）～10月22日（土）

会場：ホテル メトロポリタン（池袋西口）



主催：全国肢体不自由児施設運営協議会

後援：厚生労働省・文部科学省・東京都

社会福祉法人 日本肢体不自由児協会



<http://www.ryouiku-net.com/>

謝 辞

東大整形外科特任教授
高取吉雄先生

資料提供を頂きありがとうございました